



MIYAKOSHI



各 位

2026年6月1日

会 社 名 宮越ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 宮 越 邦 正
(コード番号 6620 東証プライム市場)
問合せ先 常務執行役員 高 木 昭 彦
(TEL:03-3298-7111)

「ワールド・イノベーション・センター(WIC)」設計の進捗について

当社グループが中国・深圳市で開発を進める「ワールド・イノベーション・センター(WIC)」について、設計パートナーである株式会社日建設計は、方案設計から初步設計の段階へ移行しております。WIC は、研究開発・産業連携・居住機能を備えた国際的イノベーション拠点として計画を進めており、初步設計の進行に伴い、建築計画の詳細化が進んでいます。

また、日建設計は、中国で広く利用されているコミュニケーションアプリ WeChat (微信)の公式アカウントにて、WIC の設計思想や品質への取り組みを紹介する記事を公開しております。本リリースでは、日建設計より提供いただいた紹介記事を PDF で掲載しております。

当社は、パートナーとともに WIC の開発を着実に進め、未来産業を支える国際的価値創造拠点の実現を目指してまいります。

なお、本件開発に関する建築計画等の詳細につきましては、2026 年 12 月頃までに骨格が固まる見通しであり、内容が整理され次第、速やかに公表いたします。また、本件による当社業績への影響はございません。

以 上

日本クオリティで描く、未来へつながる「100年建築」
世界イノベーションセンター（深圳）



深圳市福田区・車公廟エリアにおいて、未来産業を見据えた国際的イノベーション拠点の構想が進められている。

日建設計が設計に参画する「世界イノベーションセンター（深圳）（World Innovation Center Shenzhen／以下 WIC）」は、「100年建築」という長期的な時間軸と、「日本クオリティ」による高い品質基準を掲げ、都市更新と産業高度化という二つのテーマに正面から向き合うプロジェクトである。

WIC
World Innovation Center
全球创新中心

「工作、娱乐、休闲等功能融合的城市」

- WIC不单是研发、商务等工作场所，更是提升企业和工作人员竞争力的快捷而富有创意的新天地。

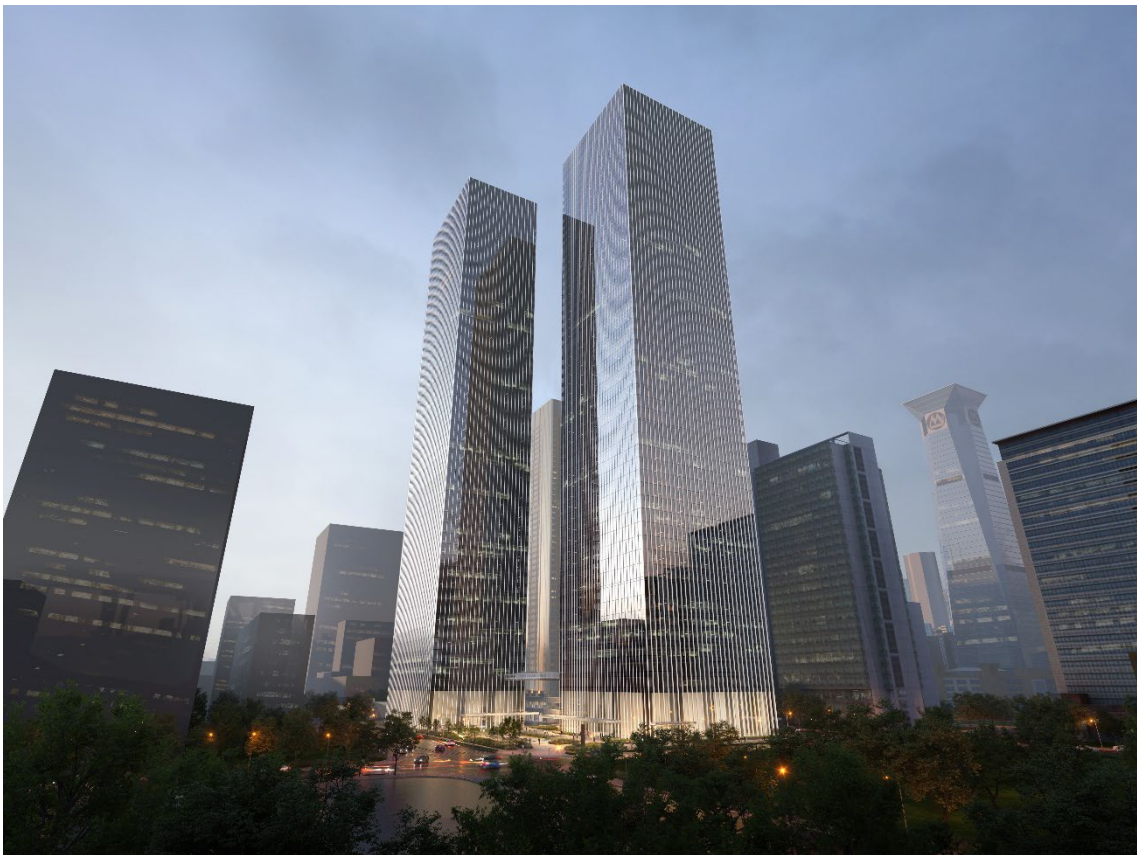
「节能环保、与自然共生的城市」

- WIC将成为融入自然、与环境共生的可持续发展新标准。

「具备强筋的恢复力、可塑性高的城市」

- 强化防灾抗灾能力，为企业和市民提供安心安全的城市空间。

プロジェクト背景



1977年の日中国交正常化後、最初期に中国市場へ進出した日本企業の一つである宮越グループは、約半世紀にわたり中国で事業を展開してきた。上海、深圳を中心に製造業および産業拠点を築き、日中協力と実践的な産業活動を基盤に、常に次代を見据えたビジネスモデル

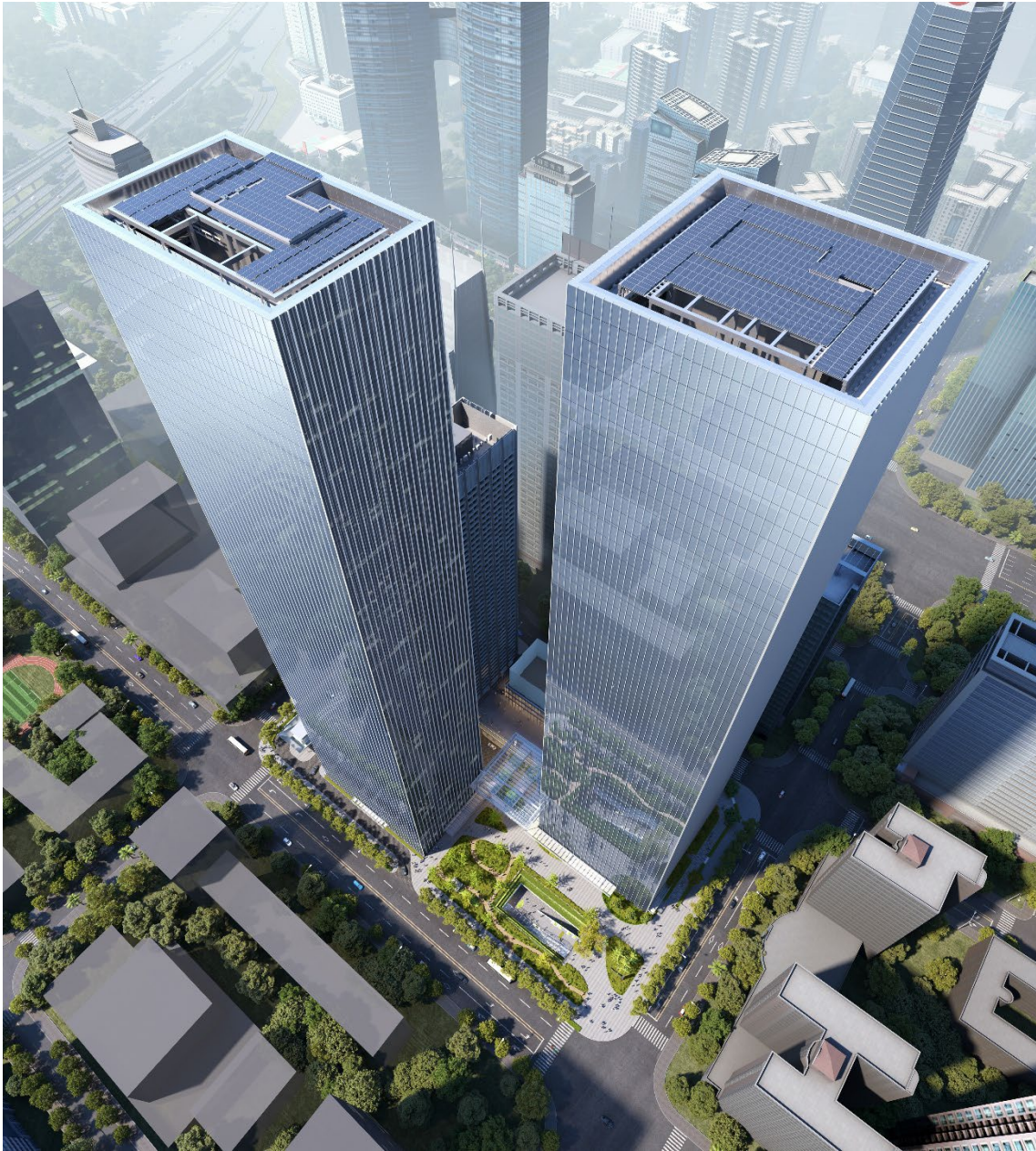
を模索してきた企業である。

こうした長年の取り組みを背景に、宮越グループは深圳を起点として「世界イノベーションセンター（深圳）」を計画。未来産業を支える国際的なイノベーション・プラットフォームとして、その可能性を都市空間に結実させようとしている。

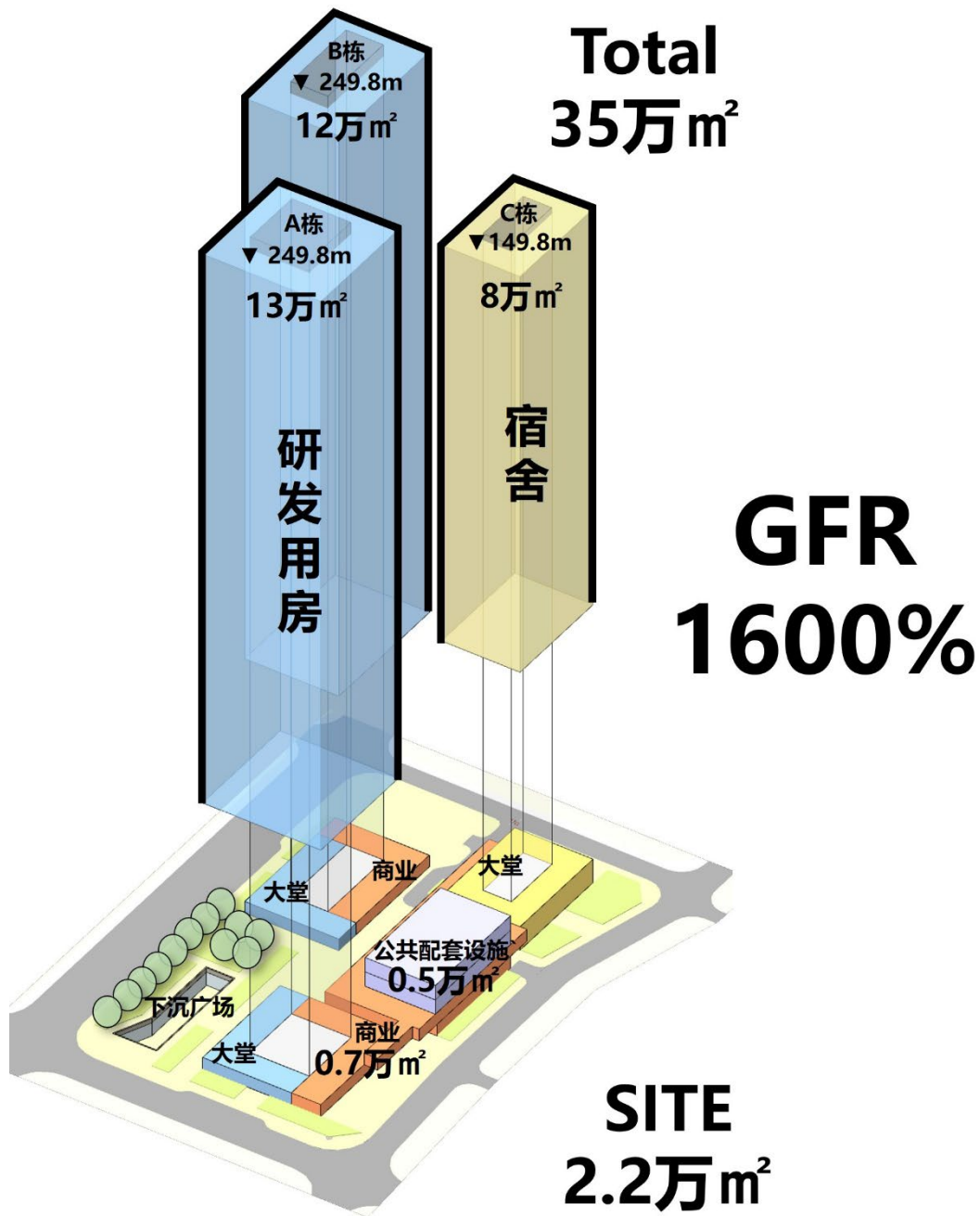


世界をつなぐイノベーション・プラットフォーム

WICは、未来産業の発展を支援する総合的なイノベーション拠点として、人材・技術・資本を結び付け、新たな価値を社会に継続的に創出・発信することを目的としている。



計画は、約 250m 級の研究開発棟 2 棟と、約 150m 級の付帯宿舎棟 1 棟から構成され、研究開発、産業連携、オフィス、居住といった機能を一体的に集積。「働く」「暮らす」「創造する」が有機的に結び付いた、真の意味でのワンストップ型都市空間を実現する。



将来的には、30 か国以上、200 社を超える企業の集積を見込み、高度に凝縮された国際産業エコシステムを形成。未来産業を支える国際交流・協働イノベーションの拠点となることを目指している。



深圳に根ざし、都市の成長と呼応する

本プロジェクトは、深圳市福田区「西翼」の重点開発エリアに位置し、車公廟地区における面的な都市更新の中核を担う。

立体的かつ複合的、そして統合的な都市開発手法により、香蜜湖新金融センターなど周辺エリアと連携しながら、地域全体の産業高度化を促進する。



交通システム、都市機能、エネルギー・防災、オープンスペースといった都市サービスを有機的に統合し、高品質なイノベーション・パークの形成を目指す。

駅と周辺街区をつなぐ立体的な都市動線や回廊によって、都市核、公共空間、サービス施設を連続的に結び、安全で快適な都市環境を構築する。



「100年建築」——時間を味方につける設計思想

本計画における「100年建築」とは、単なる耐久性の追求ではない。将来の社会変化や用途の変容を見据え、長期的な使用の可能性を今この時点から想定し、必要な条件や余地を建築に織り込むという、極めて前向きな設計思想である。WICでは、100年という時間軸を前提に、構造安全性、耐久性能、機能の可変性、さらには文化的価値に至るまで、長期にわたり社会に貢献し続ける建築を目指している。



BCP（事業継続計画）を重視した設計を中核に据え、異常気象への対応として、1階床レベルの適切な設定、低地部への止水対策、浸水リスクを伴う設備空間への防水措置を徹底。さらに、雨水の回収・再利用を通じて、緑化灌漑や道路清掃に活用するなど、資源循環と環境配慮にも積極的に取り組んでいる。



日本クオリティ——細部に宿る確かな価値

本プロジェクトにおける「日本クオリティ」とは、高い信頼性と精度、そして耐久性を基盤とした、きわめて具体的な価値体系を指す。それは、細部への徹底した配慮、継続的な改善、顧客満足度と安全性を最優先に考える姿勢に支えられている。

設計段階から性能・品質目標を定量的に設定し、設計図書に明確に反映。材料や設備、施工者の選定においては、日本の品質基準に適合するパートナーを厳選し、施工段階では高精度な施工図と品質管理体制によって成果を検証する。品質とコストの最適なバランスを常に意識しながら、構想から実現に至るすべてのプロセスにおいて、日本建築ならではのものづくりの精神を貫いている。



未来へ開かれた都市空間のかたち

限られた敷地条件の中で、高密度な立体開発と透明感のあるガラスファサードを採用し、軽やかに開放的な都市景観を創出した。ガラスファサードは、良好な視認性を確保すると同時に、軽量化によって構造システムの合理化にも寄与している。

日本建築が培ってきた高い品質基準のもと、周辺建築の映り込みによる歪みを極力抑え、結晶のように純度の高い、精緻な外観表現を実現した。



さらに、「モノコックデザイン（単殻構造）」の考え方を導入し、外皮が意匠や被覆にとどまらず、部分的に構造的役割も担う構成とした。材料使用を最小限に抑えつつ、軽量性と安定性を両立させ、簡潔で力強い建築像を描き出している。



都市とともに成長する建築へ

世界イノベーションセンターは、単なる建築群ではない。イノベーション、サステナビリティ、そして都市との共生を統合した、未来へ向けた「場」の提案である。深圳の都市更新を象徴する重要な拠点として、未来産業、都市生活、建築の価値を多角的に問い続けていく。日建設計は、国際的な視野と長年の専門的知見を生かし、パートナーとともに、深圳、中国、そして未来の都市づくりに貢献していく。(執筆：日建設計)

建物概要

- プロジェクト名 (中国語)：世界创新中心 (深圳)
- プロジェクト名 (英語)：World Innovation Center (Shenzhen)
- 用途：研究開発施設・宿舎・商業・公共施設等
- 所在地：広東省深圳市
- 敷地面積：21,991 m²
- 延床面積：454,500 m²
- 階数：地下4階／地上54階
- 軒高／最高高さ：248m

- **構造**：RC造（一部S造）
- **竣工予定**：2031年（予定）

クレジット

- **建築主（中国語）**：深圳皇冠（中国）電子有限公司
- **建築主（英語）**：Shenzhen Crown (China) Electronics Co., Ltd.
- **リードアーキテクト**：日建設計
- **主な業務範囲**：コンセプトデザイン、基本設計、外装基本設計、実施設計協力、施工協力
- **共同設計・コンサルタント等**：
国内設計院：華陽国際設計集団
企画コンサル：戴徳梁行
交通：弘達交通諮詢
構造：深圳力鵬工程研究構造設計
設備：科進柏誠工程技術（北京）有限公司
カーテンウォール：深圳前海新概念建築外装設計コンサル有限公司
都市インフラ：深圳市市政設計研究院
照明：深圳瑪特照明設計顧問有限公司
音響：上海徳懇設計コンサル有限公司